同志社よ、その名は一つの目的を意味する

ONE PURPOSE

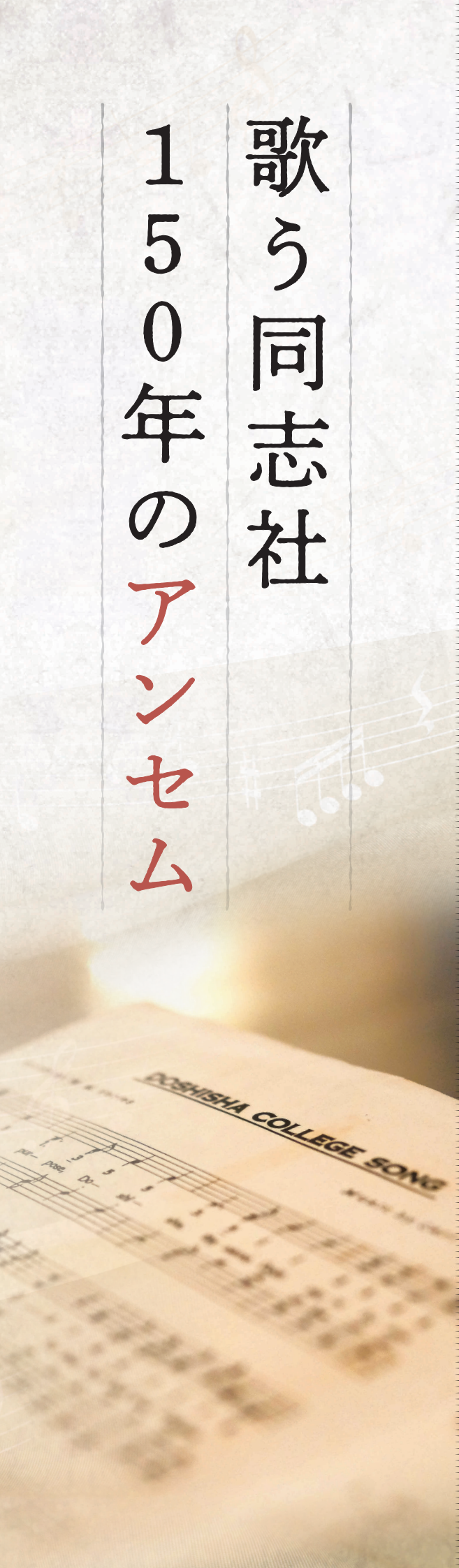
【同志社人訪問】 ラパントラック代表・脚本家 内海 照子（うつみ てるこ）さんに聞く

巻頭企画［リーダーに訊く］ ダイキン工業株式会社 代表取締役社長 兼 COO 竹中 直文（たけなか なおふみ）さん

2025 Summer | Vol.216

つくるということの未来へ

同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY



歌う同志社 150年のアンセム

VISION 2025
DOSHISHA UNIVERSITY

同志社は2025年、創立150周年

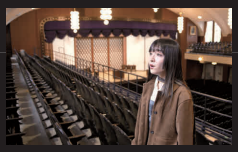
150年の歴史をたどる

#8 同志社のうた

History of DOSHISHA

「温故知新」。未来への挑戦の指針を学びとるべく、積み重ねてきた歴史をたどる。同志社は新島襄を中心に、幾多の困難を乗り越え、志を同じくする人々の祈りの中から誕生しました。「150年の歴史をたどる」第8回は、『Doshisha College Song』をはじめとする、学生たちの心を一つに結んできた「同志社のうた」を紹介します。

◀ CHECK
左記コードにて
特別ムービーを
視聴いただけます。



INDEX

02 150年の歴史をたどる　#8 同志社のうた
04 巻頭企画［リーダーに訊く］　ダイキン工業株式会社 代表取締役社長 兼 COO　竹中 直文さん
08 研究の最前線　生命医科学部　医工学科　渡辺 公貴教授
10 DOSHISHA DNA　サントリーコーポレートビジネス株式会社　東條 こみちさん
12 突破する学生たち
14 データでみる同大生の 2024年度 就職状況
16 2025年度 大学予算
17 2024年度 大学決算
18 ゼミで学ぶ 魅力を語る
20 本学教員の執筆図書紹介
21 同志社人訪問　ラパントラック合同会社 代表・脚本家　内海 照子さん
24 My Purpose 挑戦する人　片山 峻佑さん（スポーツ健康科学部 3年次生）

お知らせ

「ONE PURPOSE」は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションを図ることを目的として発行しています。同志社大学の最新情報は随時ホームページでお知らせしております。ぜひご覧ください。　▶ https://www.doshisha.ac.jp/

卒業生の住所変更、発送停止を希望される場合の連絡先は以下にお願いします。
校友課 TEL：075-251-3009　MAIL：ji-koyu@mail.doshisha.ac.jp

ウィリアム・メレル・ヴォーリズをご存じですか？ 滋賀県立商業学校（現・八幡商業高等学校）の英語教師として赴任するために、１９０５年２月２日にアメリカからやって来た弱冠24歳の青年。若くて気さくな彼は多大な人気を集め、バイブルクラスを開いて伝道活動に注力します。

着任した10日後、彼は、同志社を訪れています。「日本に関する私の知識と申せば同志社とJoseph Hardy Neesimaとだけでした」（『同志社ソングと作詞事情』１９５７年・ヴォーリズ談・同志社社史資料センター）というヴォーリズを、同志社の教師や生徒・学生たちは、志を同じくする者として歓待したことでしょう。その２年後、英語教師の職を解かれながらも近江八幡の地に留まって伝道を続けることを決意したヴォーリズに、同志社は校歌の作詞を依頼します。それが、１９０８年に完成し、今日まで歌い継がれる『Doshisha College Song』、本誌のタイトルにもなっている「One purpose」で始まるあの歌です。

その後も同志社ではさまざまな歌が作られていきます。創立60周年の１９３５年には、作詞：北原白秋、作曲：山田耕筰という稀代のヒットメーカーによって『同志社大学歌』が、校友の湯浅半月作詞、大中寅二作曲の『同志社校歌』が、それぞれ誕生しました。さらに創立80周年時には『同志社讃歌』が、90周年時には『集え若人』が、１００周年時には『祝歌』が作成され、発表されています。同志社中学・高校、同志社女子中学・高校の音楽教材にもなっている『同志社歌集』（同志社歌集編集委員会）を繙くと、これらの歌に加え、応援歌や部歌、寮歌など数十曲が採譜されていて、同志社がいかに音楽に満ちた学園であるかが分かります。

『同志社ソングと作詞事情』には、「One purpose」に込めた想いが綴られている。1番と4番を歌う伝統は、ヴォーリズの「世界同胞のために」という願いに由来

ヴォーリズの直筆サインが入った『Doshisha College Song』の譜面

上）1934年開催の「第2回救世主演奏会」。壇上に立つのは指揮のクラップ先生
下）『同志社大学歌』の作曲者・山田耕筰が、自ら栄光館で学生に歌唱指導

同志社グリークラブ60周年記念誌より

かつては入学式でＣＤやカセットテープ、ソノシートなどが配布され、スポーツの応援や合宿、公式・非公式を問わず学生や卒業生の集いなど、さまざまなシーンに「歌う同志社」の姿がありました。１９７０年代、学生運動の高揚の中で同志社のキャンパスにもバリケードが築かれます。そこは『インターナショナル』か『ワルシャワ労働歌』が歌われる場面なのですが、うっかり「One purpose～」と歌い始める学生がいて、なぜか違和感なく響いた、ということがあったそうです。団結して闘おうとする者たちの志と平仄があっていた、ということなのでしょうか。

そして、創立１５０周年。オリジナル賛美歌『主の道を行こう』（作詞：堀之内涼〈同志社大学商学部２年次生＝当時＝〉・作曲：成田和子〈同志社女子大学学芸学部音楽学科特任教授〉）が生まれました。歌い継がれるもの、新しく響き始めるもの。同志社の歴史を彩る数々のアンセムは、今はＹｏｕＴｕｂｅなどでも聴くことができます。

伝統の「同立戦」（硬式野球）より。應援團が伝統の応援歌を演奏し、スタジアムを沸かせます

学校法人同志社創立150周年を記念して生まれた同志社オリジナル賛美歌『主の道を行こう』は右記コードより視聴いただけます

『Doshisha College Song』の歌詞について、同志社女子大学 児玉実英名誉教授が解説していますので、ぜひご参照ください

ダイキン工業株式会社　代表取締役社長兼COO

竹中（たけなか） 直文（なおふみ）さん

1986年、同志社大工学部電気工学科卒。同年、ダイキン工業に入社し、業務用空調の企画・開発に携わる。2012年に専任役員に就任。常務執行役員人事・総務担当、専務執行役員などを歴任し、24年から現職。社が掲げる「人を基軸におく経営」を体現すべく、現場で直接議論し、共感と納得を得ることをモットーに、世界中に10万人を超す社員を抱えるグローバル企業のかじ取りを行う。座右の銘は「自然体」。趣味は宝塚歌劇やミュージカル鑑賞。

空気に新しい価値を創造 万博で見せる挑戦と共創

大阪・関西万博で人気を集めているのが、ダイキン工業とサントリーによる水上ショー「アオと夜の虹のパレード」だ。ウォータープラザ内の約8800平方㍍を巨大な舞台に見立て、映像が浮かび上がるオブジェと約300基の噴水を設置。レーザーやプロジェクションマッピング、音響を駆使し、「空気」と「水」をテーマにしたショーを日没後に2回、繰り広げる。「リアルでしか体験できない感動を通じて、いのちの源である水と空気の大切さを考えるきっかけにしてほしい」と竹中さんは語る。

Doshisha meets EXPO 2025.

つくる、ということの未来へ。

4月に開幕した大阪・関西万博は、未来社会を展望するとともに、世界との交流拠点となり、日々新しい出会いと発見で盛り上がりを見せています。地球的な気候変動、混沌として先の見通せない世界情勢の中で、「いのち」をテーマに展開される万博が日本、それも関西で開かれることには大きな意義があると思われます。様々な形で万博に関わるとともに、「万博後」を思い描く学生やOB・OG、本学教員を紹介します。

未来技術にワクワクする体験を。

水上ショーは先進技術やサービスを展示する「未来社会ショーケース」の一環で、ダイキン工業は同事業のプラチナパートナーだ。大阪発の企業として、万博への協力をすぐに決めたという。

「真っ先に頭に浮かべたのは、自社ならではの未来技術で、お客様をワクワクさせることです。私自身、小学1年生だった1970年に大阪万博へ行き、未来の技術に感動して技術者を志しました。今回の万博が人々の夢や可能性を広げ、持続可能な未来の創造のために行動を起こすきっかけになってほしい。また、万博に関わって関西を盛り上げることは、育てていただいた地元への恩返しにもなる。そう考えたのです」

空調機メーカーとして、「空気が可能にする未来の姿」をコンセプトにアイデアを出すよう呼び掛けたところ、若手の研究開発技術者30人ほどから提案が寄せられた。「万博は、技術者が夢とロマンを感じる機会でもあるのだと改めて実感しました。当時常務だった私も入り、様々な部署が一体となって議論を重ねました」と、竹中さんは楽しそうに振り返る。

そんな折、サントリーから共創を呼びかけられ、「水も空気も先人から受け継いだかけがえのない財産。貴重な財産を未来へつなぐ企業として一緒にやろう」と意気投合。世界から注目されるイベントであることから、技術を前面に出すのではなく、新たな価値の創造に取り組む企業姿勢をアピールしようと、ショーをベースに行うことにした。

「新しいことにチャレンジする企業風土や価値観が合ったことが大きかったですね。共に日本を代表するグローバル企業として、いい加減なことはできないと、細部までこだ

わって内容を考えました」。説明調にならず「空気」を感じてもらうにはどうすればいいか、主人公をどんなキャラクターにすれば多くの人の共感を得られるのか――。議論では、若手社員が役員相手にも臆せず自分の意見を言い、ダメ出しをしても食い下がってきた。侃侃諤諤（かんかんがくがく）の議論をベースにした「フラット&スピードの組織運営」が根付いていることを頼もしく感じたという竹中さんは、「運営を含め、水上ショーは今も進化中です」と笑って見せる。

新技術に挑戦、万博後へつなぐ

水上ショーは趣向を変えて昼間も行っており、約300基の噴水を操る壮大な体験が出来る観客参加型イベント「水と空気のマジカルダンス」は、最大のインタラクティブ（双方向的）な噴水設備としてギネス世界記録（TM）に認定された。「全く違う業種が一つの目的、一つの価値観に基づいて新しいものを生む。これからの時代、サステナブルな社会・経済・暮らしというものを提供していくのは1社では難しく、万博を機に共創できたことは良かったと思います」と竹中さんは語る。

また、技術力を打ち出して「空気の新しい価値」を提案しているのが、やはりサントリーと共同運営するレストラン「水空 SUIKUU」での試みだ。換気性能に優れた新空調システムをホールに設置。東京大学との共同開発により、個室では壁面に高原の景色を映し出し、温度、湿度、気流をコントロールすることで、実際に高原で食事をしているかのような気分を味わってもらう。さらに、大阪大学との共同研究で目に見えない空気環境の可視化に挑み、屋内外の温度や湿度など空気の状態を、生成AIによる絵画で表現する「未来の温度計」も設置した。

「冷やす・温めるというハードを提供するのではなく、最も食事がおいしくなる、あるいは会話が弾む『空間』を提供しようというチャレンジです。ありがたいことに、万博後もこういうレストランを運営したいという声を幾つかいただいています。今後、価値化した空気をレストランや学校、病院など市場・用途別に具体的に展開していくことが万博レガシーであり、持続的な成長のために必要不可欠だと考えています」

万博での経験を成長の糧に

竹中さんはダイキン工業が創業100周年を迎えた2024年、社長兼COO（最高執行責任者）に就任した。1924年、難波の町工場で15人の従業員からスタートした同社は、この100年間で170以上の国・地域で事業を展開し10万人以上が働くグローバル企業に成長した。「売上高4兆円超のうち海外比率が83%を占め、従業員も85%が外国籍です。2023年には定年を延長し、若者からシニアまで幅広い年齢層が活躍しています。一人一人の個性を生かしながら、独自性を持ったものをつくり出せるダイバーシティー（多様性）を大事にしています」

新たに策定した経営理念では、「人の力で、豊かな未来を追求する」と、企業として目指す在り方を明快に打ち出した。これを10万人の隅々にまで認識させ実行に移していくため、トップ自身の夢や志を一人一人に伝え、議論することで共感と納得を得るプロセスを大切にしている。「企業の成長・発展のベースになるのは社員一人一人の成長です。社員にどれだけ挑戦できる環境を提供するかが経営者の仕事。万博も、そのきっかけになりました」

忘れられない出来事がある。ある夜、竹中さんが水上ショーを見に行くと、社員たちも来ていて、取り組んできたものが形になっているのを見て感動していた。社員らは竹中さんに気付くと駆け寄り、「社長、ありがとうございました」と言ったのだそうだ。「ダイキン工業に所属していることへの喜び、誇りを感じてくれていることが分かる『ありがとう』でした。礼を言うのは私の方です。社員が自分事として取り組み、作り上げてくれたのですから。あの『ありがとう』は、本当にうれしかったです」

↘

同志社ならではの多様性に期待

技術者になりたいと入学した同志社大学工学部では、ハードな授業の傍ら、テニスサークルの活動に夢中になった。

「大阪市内に住んでいて高校まで公立だったのですが、同志社には北海道出身者も九州出身者もいる。文系の学生も多く、自分が持っていない価値観の連中とワイワイ言いながらサークルを運営するのが楽しくて。いろいろとアイデアを出しては新しいことを試していました。多様性と自由闊達（かったつ）な気風から生まれる独自性は、当社が大事にする企業文化、行動規範と全く同じです。古都ならではの歴史や伝統、受け継がれてきた技術があり、そこに若い学生たちがいる。京都にある同志社で学んだことが、当社のダイバーシティーやグローバル化とつながっているように思います」

グローバル企業のかじ取りをする中で日々、情勢変化のスピードの速さと、先の見通しにくい時代になっていることを実感している。こうした環境下で民間企業が持続的に成長発展していくには、従来の延長線上ではない、新たなものを生み出していくことが必要だと確信し、「万博での挑戦は、そのスタート」と力を込める。

卒業生として母校に望むのは、自主独立の精神と実行力を備えた人材の育成だ。「イノベーション（技術革新）は共感と対話から生まれるので、これからの時代、そのための議論をするには高い専門性と広い教養が必要です。同志社大学には、ぜひそういう学生を育ててほしいですし、それができる大学だと思っています。そして、教養を得るために最も大事なことは、いろいろな人に出会うこと。同志社大学にはそういう機会があふれています。学生の皆さんには出会いと経験をたくさん積んで、これからの日本、世界を引っ張っていってほしいと期待しています」

↘

研究の最前線
Forefront of research

チャレンジスピリットが原動力
同志社発の小型ローバー開発に挑む

生命医科学部 医工学科　渡辺（わたなべ） 公貴（きみたか）教授

1984年、同志社大学工学部卒。時計メーカー等を経て1999年に入社した株式会社トミー（現・タカラトミー）で手のひらサイズのペット型ロボット「マイクロペット」（2002年）、超小型二足歩行人型ロボット「ｉ-ＳＯＢＯＴ」（2007年）を企画開発。いずれも世界最小のトイ・ロボットとしてギネス世界記録（TM）に認定され、「ｉ-ＳＯＢＯＴ」は2008年の最も優秀なロボットに贈られる経済産業大臣賞を受賞した。2016年に宇宙航空研究開発機構（ＪＡＸＡ）と宇宙探査イノベーションハブで共同研究を開始。2020年から現職。

月面を走った世界最小・最軽量のロボ

２０２４年1月20日、世界初の「月面ピンポイント着陸」を成功させた宇宙航空研究開発機構（ＪＡＸＡ）の小型月着陸実証機「ＳＬＩＭ」。月面に逆さに降り立ったその姿を撮影し、世界を沸かせたのが、ＳＬＩＭに搭載された変形型月面ロボット「ＬＥＶ-２」（愛称「ＳＯＲＡ-Ｑ」）だ。直径約80ミリ、質量２２８グラム。世界最小・最軽量の月面探査ロボットは、どのようにして月へ向かい、〝あの写真〟を撮ったのか。現在開催中の大阪・関西万博にあるＪＡＸＡブースでは、高精細ＣＧによる再現映像が毎日上映されている。

「万博で一番楽しみにしていた展示です。素晴らしい映像で、ＳＬＩＭ着陸の知らせを聞いた時と同じぐらい感動しました」と笑顔で語るＳＯＲＡ-Ｑの生みの親、渡辺公貴教授は、ＪＡＸＡとタカラトミー、ソニーグループ、同志社大学による共同開発に、最初から関わっている。

「こんなに小さくても月面で活動できるんだという驚きは、宇宙機器に対するハードルを下げ、『自分たちでも手が届くんだ』という導入になると思うんです。子どもが理系分野に進むことを目指し、学生はチャンスを見つけて自ら挑戦しようとする。ＳＯＲＡ-Ｑの展示が、そのきっかけになるといいなと思います」

おもちゃ作りから宇宙探査機器開発へ

タカラトミーで世界市場も見据えた玩具の企画開発をしていた渡辺教授がＳＯＲＡ-Ｑ開発に携わることになった

のは、２０１５年。新たな宇宙探査機器の開発を目指し、ＪＡＸＡが昆虫型ロボットの共同研究パートナーを募集しているのを知ったのがきっかけだった。「アポロ11号の月面着陸をテレビで見ても、１９７０年の万博で『月の石』を見ても、自分には遠い存在にしか思えなかった宇宙が、『昆虫型ロボ』というワードで一気に身近になりました。大ヒットした『i-SOBOT』に次ぐロボット開発に頭を悩ませていた時期でもあり、ＪＡＸＡとなら面白いものを作れそうだと、すぐに応募したんです」と振り返る。

ユニークな動きをする世界最小の二足歩行ロボット「i-SOBOT」、手のひらサイズのペット型ロボット「マイクロペット」。SORA-Qには、こうした玩具作りで培ったノウハウが凝縮されている。「SLIM搭載時は球体で、中の構造体を打ち上げ時の振動や落下時の衝撃から守ります。月面に放出されると走行モードに変形。外殻が左右に開いて車輪になるのですが、これには部品の数を減らして故障原因を減らすと共に、本体を軽くする狙いがあります」。月面はレゴリスと呼ばれる細かな砂で覆われている。いかに走行させるかが課題だったが、左右のヒレで交互に砂を押さえて進むウミガメの赤ちゃんの動きに着目。お尻をぴょこぴょこ振りながら走るアヒル玩具を参考に、車輪の回転軸を中心からずらすことで両輪を不ぞろいに動かし、砂地でも30度の急斜面を上り切る構造を実現した。見事にミッションを達成したSORA-Qは、その後、同型の玩具が発売され、一時は注文に生産が追いつかないほどのヒット商品になった。

中央部からカメラをのぞかせた、走行モードの「SORA-Q」。世界最小・最軽量の月面探査ロボットだ

新しいことに挑戦する気概を

２０２０年に母校・同志社大学に赴任してからは、バイオメカニクス研究室で、生物の動きを参考にした月・惑星探査用小型ローバーの研究開発に打ち込んでいる。そんな母校は創立１５０周年という節目を迎えた今年、文系と理系の垣根を越えた「同志社大学宇宙共生研究センター」を開設した。「これから学生たちにはやることがたくさんある。４輪で月面を元気よく走り、月面開発に役立つような小型ローバーを自分たちで開発し、自らそのアピールの場を見つける。そんな自主独立の気概を持ってほしい」。今年は初めて学生が、11月に東京で開かれる衛星設計コンテストに出場するのだと、うれしそうに明かしてくれた。

玩具から宇宙探査機器の開発までフィールドを広げてきた自身の経験を振り返りつつ、渡辺教授は学生に「挑戦しよう」とエールを送る。

「マイクロペットもi-SOBOTも、企画・開発段階では社内の空気は否定的でしたが、私には、自分が考えたものは売れるという自信がありました。失敗はしない方がいい。かといって失敗を恐れてもいけない。自分の考えたものにどれだけ邁進できるか、そのマインドが重要なんです。就職するにせよ起業するにせよ、学生たちには『これが自分の製品だ』『これは自分が主になって関わったプロジェクトだ』ということが言えるような社会人になってほしい。それは、何か新しいことに挑戦しないと言えない言葉なんです」

（２０２５年６月２日）

小さな体に17ものモーターを搭載、多彩な動きを見せる「i-SOBOT」。研究室には特別な彩色の“同志社バージョン”が

DOSHISHA DNA
【ビジネスパーソン】

関西の街を元気に! 万博をアート自販機で盛り上げる

大阪・関西万博が開幕する2年前、サントリーグループが社員を対象に実施した「万博Action!」という社内公募で、提案したプロジェクト「SUNTORY街角のパビリオン」が、見事採択されたサントリーコーポレートビジネス株式会社の東條こみちさん。プロジェクトの内容や現在の仕事、学生時代のエピソードなどについて伺った。

サントリーコーポレートビジネス株式会社
西日本支社営業部営業担当部長
東條（とうじょう） こみちさん

1999年、同志社大学法学部法律学科卒業。同年、サントリーフーズ（株）入社。新入社員で初の女性営業職としてウォーターサービス部に配属される。近畿支社大阪第二支店自販機課、同企画部（自販機担当）などを経て、2025年4月から現職。「企画部から営業に戻ってきて、毎日楽しい」

世界のお祭りに参加したい

「街角のパビリオン」は、関西2府4県にあるサントリーの自動販売機（自販機）を、アートパビリオンに変身させるというもの。47都道府県にゆかりのある47人のアーティストが、万博のテーマ「いのちの輝き」を表現したアートで自販機を彩る。

「サントリーの自販機は関西に約6万台あるんですが、そのうちの約90台をアートでラッピングしました。南海天下茶屋駅（大阪市）や薬師寺（奈良市）など、駅や観光地に設置し、公式ホームページでマップを公開しています。関西の街を巡るきっかけにしてもらおうと、アート自販機を10台めぐるとプレゼントがもらえるスタンプラリーも実施しています（7月24日まで）」

大阪で万博が開かれるのは55年ぶり。前回の万博の時には東條さんはまだ生まれていなかった。「万博に関われるのなんて、人生で一度。せっかくなら、この世界のお祭りに参加したい、みんなで盛り上げたい、という気持ちで手を挙げました」。公募に通った喜びもつかの間、東條さんはすぐに「失敗したと思った」と話す。

「当社の万博推進室から費用をいただいたんですが、この企画を実現させるには全然足りなくて。プロジェクトの質を落とさず総額費用をできるだけ抑えつつ、不足した分をいかに会社から支援してもらうか、交渉に苦労しました」。費用面以外でも、万博を運営する協会との折衝や社内調整、プロジェクトを進めるためのタスク、本来の業務で多忙を極めた。やり抜く原動力になったのは、関西に対する熱い思いだ。「『大大阪』の時代、大阪が文化の発信地だったはずなのに、今は東京が中心になってしまっています。復権し

社内公募から生まれた「街角のパビリオン」。参加アーティスト、デザイン、設置場所はホームページで公開されている

たいという思いがありました。かつて、太陽の塔をつくった岡本太郎さんは『芸術は大衆のもの』という考えのもと、たくさんのパブリックアートを実現されました。街中の自販機という大衆的なものもアートになれば、いろんな人が見に来てくれて、関西の街を好きになってもらえるのではないか。そんな思いが、プロジェクトの発想の原点ですね」

会社に集う人たちが好き

就職活動では、関東の企業からも内定を得たが、関西で働きたいと考えていた頃、同社に出会った。「1次面接で『説明会の時の人事担当者の感じが悪かった』って率直に伝えたのに、2次面接のお誘いがきて。『あ、変わった会社だな、おもしろいな』というのが入社の決め手でした」と笑う。ユニークな人材も多く、会社以上に〝会社に集う人たち〟が好きだと東條さんは話す。

「3人いるチームメンバーは全員年上の大先輩。元バルセロナオリンピック代表でサントリーサンバーズ大阪（サントリーのバレーボールチーム）の選手・GMを経験された方や、お酒が全然飲めないのにワインやウイスキーの上級資格をもっている方、ビール工場に入社したのに業務用営業に抜擢され、そこから営業一筋の方と多彩な人材がそろっています。後ろから『先輩がんばってー！』って言うのが私の仕事ですね（笑）。うちのチームだけでなく、会社全体に魅力的な人が多い。〝サントリー教〟と言われるくらい会社好きな人が多いですが、人材の豊かさ、明るさが魅力なんだと思います」

ラクロスを通して気づいた自分の強み

同志社高校時代は陸上部のマネジャーをしていたが、「プレーする側になりたい」と大学ではラクロス部に入部した。学生時代の思い出は、法学部のある今出川キャンパスよりも、練習グラウンドのある京田辺キャンパスに多いという。このラクロス一色の4年間が、現在の仕事を選ぶ礎となった。「プレーヤーをやってみて、自分でやった分が成果として返ってくる営業が、私には向いているということが分かりました。ラクロスはチームスポーツですが、サントリーの営業もチームで戦うもの。みんなで一つのことをやり遂げるところに共通点があります」。また、部活動でできたつながりも学生時代に得た財産。「今度、同期13人で万博に行くんです。子どもを連れてくる人もいるし、山梨から参加する人もいます。中学や高校の友だちとは疎遠になりがちですが、大学でできた仲間は長く付き合える人が多い。出会いを大事にして、『同志社っていいよな』って思える大学生活にしてほしいですね」

Keihanna Avatar Challenge

突破する Break through 学生たち

アバターで挑んだ万博 距離をバーチャルで跳び越えろ！

4月に開幕し、盛り上がりを見せている大阪・関西万博。会場の夢洲には、約160の国や地域の英知が結集し、課題解決に向けたアイデアや創造を発信している。いわば世界の技術の〝見本市〟に、同志社ローム記念館プロジェクトに採択された団体の一つ「けいはんなアバターチャレンジプロジェクト」が参加した。アバターとは？ 万博での活動は？ メンバーの中島さん、村岸さん、久野さん、森川さんに話を聞いた。

同志社ローム記念館プロジェクトとは

2003年、ローム記念館が開館したことを受け、学校法人同志社に受け継がれる「倜儻不羈（てきとうふき）」を体現する人材を育てようとスタートしたプログラム。学部や学科・研究科の枠を超え、教育やまちづくりなど、さまざまなテーマでプロジェクトを展開。実践的な学びを深め、社会人として必要なスキルを身につける。毎年秋学期に公募が開始され、選考を通過したプロジェクトが数カ月～1年間、活動する。今年は「けいはんなアバターチャレンジプロジェクト」を含め、8件が採択された。

※倜儻不羈：才覚が優れ、独立心が強く、世俗的な考え方にしばられないこと

脳科学研究科 博士課程2年次生 中島（なかしま） 大介（だいすけ）さん

本プロジェクトのリーダー。万博ではガンダム像がお気に入り。シューティングゲームを、あえてストレスをためながら楽しむのが趣味。

理工学部4年次生 村岸（むらぎし） 秋生（あきお）さん

万博でのおすすめは「静けさの森」。最近は葉っぱをスキャンすることにはまっている。「クスノキにはダニ部屋があるんです。拡大してみるとおもしろいですよ」

理工学部4年次生 久野（くの） 将寛（まさひろ）さん

万博ではスムージーをつくるロボットに興味を持った。「ロボットが社会で活躍する一例を見ることができました」

理工学部3年次生 森川（もりかわ） 龍（りゅう）さん

万博では、大屋根リングに感動。対岸まで見渡せる景色は必見。今回のプロジェクトでは3Dプリンターを初めて使用した。「イメージ通りに出力するのが難しかったです」

❶けいはんなアバターチャレンジ2025では、同志社大学から出場した3台のうち、2台が優勝、準優勝に輝いた ❷万博会場から奈良・平城宮跡のアバターを遠隔操作 ❸平城宮跡で奈良時代の衣装をまとったメンバーが、アバターを通して万博会場とつながった

「けいはんなアバターチャレンジプロジェクト」について教えてください。

中島：もともと、万博と連動して開催するロボットの大運動会「けいはんなアバターチャレンジ2025」（5月25日、けいはんな学研都市地区で）に自作のロボットで出場、運営やサポートも行うことを目的にスタートしたプロジェクトです。

村岸：アバターとは遠隔操縦ロボットのことで、遠く離れたところから、マウスやゲーム機のコントローラーを使って動かします。当日は、同志社大学から3台が出場し、他大学や企業などから参加した7台のアバターと競いました。

久野：最初に10台でパレードした後、アバターがインターホンを鳴らして、お菓子をもらう「地蔵盆」競技や、地域のファストフード店にアバターが買い物に行き、ハンバーガーを買って帰ってくる「買い物競争」などを行いました。

大阪・関西万博では？

中島：奈良の平城宮跡に置いたアバターを、万博会場から遠隔で操作するイベントを開幕直後に開きました。アバターが、大極殿の周りなどを時速4～5㎞で自由に動き回り、送られてくる画像を通して、万博会場にいながら、平城宮跡の観光を楽しめるというものです。8月2・3日に関西パビリオン京都ブース、9月19日に大阪ヘルスケアパビリオン リボーンステージで、同様のイベントを予定しています。

久野：アバターに搭載した画面には万博会場にいる操縦者の顔が映し出され、万博会場のパソコン画面にはアバターの見ている平城宮跡の風景が映し出されます。マイクがついているので声のやりとりも可能で、万博会場と平城宮跡で会話することもできます。

森川：当日は、万博に遠足で来ていた子どもたちや、海外の方など100人を超える人たちに楽しんでもらいました。遠隔操作自体はもちろん、遠くのものをまるで自分の目で見ているような非日常感がうけていたのではと思います。

村岸：平城宮跡は地面が舗装されていないので、USBが抜けるなど、アバターがスムーズに動かないこともしばしばありました。ただ、ロボットは〝トラブるもの〟。やってみて初めて分かることもあるので、修正を加えながら対応しました。

万博での取り組みを通じ、感じたことは。

久野：日本の人に限らず、不特定多数の人たちに操作してもらえ、感想を聞けたのが、世界的なイベントの良さだと思いました。

中島：新型コロナの時期に、いろいろなプロジェクトや技術が途絶えてしまうのを目の当たりにしました。最近、SDGsという言葉がよく聞かれますが、技術も途絶えることなく持続可能になればいいなと思いました。

村岸：単にものを消費するということではなく、生産活動に結びつけるというのが万博のレガシーではないかと感じました。シンギュラリティー（人工知能が人間の知能を超える時代）が来ても、自分の生き方や目的に合わせて、消費活動を生産活動に転化することができれば、文明は停滞しないのではないかと思いました。

プロジェクトに参加して。

森川：ほかではできないような体験や、知識を得ることができました。自分たちの技術が、高齢者など、移動が難しい人たちの活動の幅を広げることにつながればいいなと思います。

久野：習ったことをアウトプットできる場所を得ることができました。授業で製図などを勉強しても、実際につくるところまではやらない。動かせるというところまでできるのが魅力です。

中島：プロジェクトを通じ、さまざまな人との出会いがありました。専門に研究している人たちだけでなく、小中学生でもすごい人たちがいて、情報を交換するなど有意義な時間を持てています。

村岸：アバターを利用することで、一つの体が同時に複数の場所に存在することができ、「ダブルブッキング」ということがなくなります。物理的、時間的距離をバーチャルで越えられる。アバター技術が、そんな未来につながればと思って活動しています。

分身として動かすアバターは、高さ約1.4m。中央のモニターに、操縦者の顔が映し出される

データでみる同大生の

2024年度 就職状況

2024年度の就職率は99.7%(学部・研究科合計)となり、昨年度に引き続き企業の採用意欲が堅調に推移する中、就職率は高い数字となりました。多くの企業では、競争が一層激化する環境下で、内々定・内定を出す時期がより一層早期化しました。内々定・内定出しのタイミングは早まっていますが、採用予定人数を確保できなかったことから、夏以降も採用活動を継続する企業も多く、早期化と同時に長期化しています。また、多くの企業は昨年度と同様に、採用予定人数の確保よりも将来のコアとなる人材を確保しようとする厳選採用の姿勢を堅持しています。このような状況の中で、これまで以上に、変化に柔軟に対応し、自ら考え行動できる自立した学生が求められています。皆さん自身が納得できるキャリアを形成するためには、勉強やサークルなど、今できることに本気で取り組み、充実した大学生活を過ごし、インターンシップやキャリアセンターのプログラムを通して社会の動向や働くことへの理解を深め、早い段階から将来の進路を考えていくことが大切です。

■ 就職者数上位30位 企業・団体名と人数

文系

国家公務員(一般職)	56
株式会社ニトリ	33
株式会社京都銀行	31
株式会社NTTドコモ	30
日本生命保険相互会社	28
みずほフィナンシャルグループ	27
りそなグループ	27
京都中央信用金庫	26
東京海上日動火災保険株式会社	23
住友生命保険相互会社	22
株式会社ベイカレント・コンサルティング	22
大和証券株式会社	20
レバレジーズ株式会社	20
日本電気株式会社	19
株式会社村田製作所	19
全日本空輸株式会社	18
株式会社NTTデータ	17
京都府	17
大和ハウス工業株式会社	17
みずほ証券株式会社	17
株式会社滋賀銀行	16
三井住友信託銀行株式会社	16
三菱電機株式会社	16
株式会社三井住友銀行	16
楽天グループ株式会社	16
株式会社キーエンス	15
裁判所職員(一般職・裁判所事務官)	15
富士通株式会社	15
パナソニック株式会社	15
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	14
大阪市	14
ダイキン工業株式会社	14
日本航空株式会社	14
株式会社日立製作所	14

理系

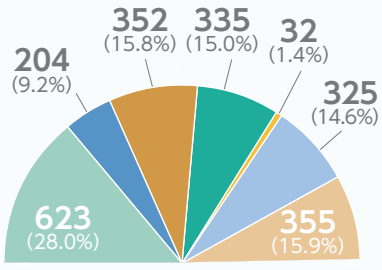
トヨタ自動車株式会社	29
ダイキン工業株式会社	18
パナソニック株式会社	15
株式会社村田製作所	11
株式会社クボタ	10
株式会社日立製作所	10
三菱重工業株式会社	8
株式会社NTTドコモ	7
関西電力株式会社	7
京セラ株式会社	7
株式会社デンソー	7
富士通株式会社	7
本田技研工業株式会社	7
株式会社きんでん	6
株式会社豊田自動織機	6
日本電気株式会社	6
株式会社野村総合研究所	6
三菱電機株式会社	6
NECソリューションイノベータ株式会社	5
株式会社NTTデータ	5
株式会社島津製作所	5
西日本旅客鉄道株式会社	5
株式会社日立システムズ	5
アクセンチュア株式会社	4
川崎重工業株式会社	4
株式会社小松製作所	4
日本製鉄株式会社	4
シスメックス株式会社	4
積水化学工業株式会社	4
西日本電信電話株式会社	4
株式会社日立ハイテク	4
パナソニック コネクト株式会社	4
パナソニック インダストリー株式会社	4
パナソニック エナジー株式会社	4

※企業・団体名は2025年3月31日現在の名称を記載しています。

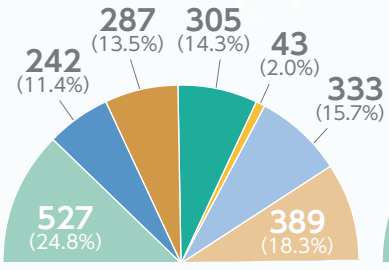
■ 業種別内定状況

※率(%)は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

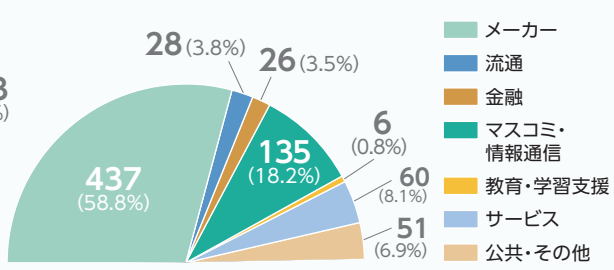
文系学部・研究科 男子(人)



文系学部・研究科 女子(人)

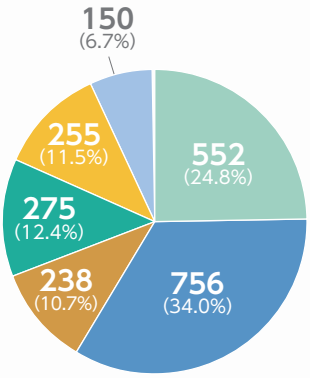


理系学部・研究科(人)

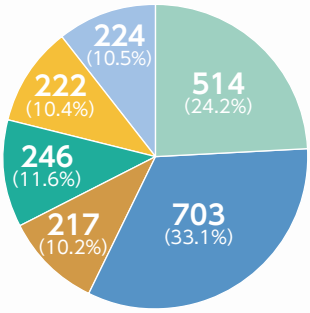


■ 従業員規模別就職状況

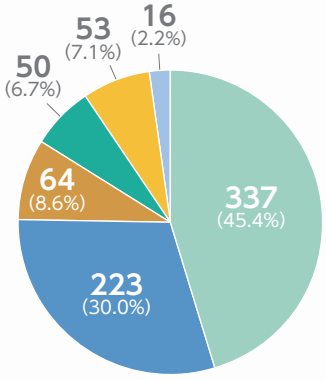
文系学部・研究科 男子（人）



文系学部・研究科 女子（人）



理系学部・研究科（人）



巨大企業　中企業
大企業A　小企業
大企業B　その他

注：巨大企業=従業員5,000人以上
大企業A=1,000人以上
大企業B=500人以上
中企業=100人以上
小企業=100人未満

※率（%）は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
※各種学校、非営利団体、宗教法人、医療・保健、介護事業、公務員などの業種は全てその他に含まれます。

キャリアセンターWebサイトで情報収集できます!

キャリアセンターが開催するプログラム情報や個別相談の利用方法、OB・OG情報の閲覧方法など就職活動に関する情報をお知らせしています。1年次生から参加できるプログラムもあります。就職を考えている方はもちろん、将来を考えるきっかけがほしい方もぜひ利用してください。

【Webサイトに掲載している主な内容】
- キャリアセンター利用案内
- 個別相談利用方法
- OB・OG情報の閲覧方法
- プログラム案内
- 証明書・履歴書
- 就職統計情報
- インターンシップ

同志社大学限定の求人情報を見ることができます!

「求人・インターンシップ情報検索サイト」には、企業・団体から届いたインターンシップや求人の情報を掲載しています。情報検索時に「募集校限定求人」の条件を設定することで、「特に同志社大学の学生を採用したい」と考えている企業の求人情報を見ることができます。ぜひご利用ください。

求人・インターンシップ情報検索サイト

個別相談（予約制）を利用しよう!

「予約制」、「就職相談」と身構えずに気軽に利用を

キャリアコンサルタントの資格を持つアドバイザーや同志社大学職員に、自身のキャリアやインターンシップ、就職に関する相談をすることができます。1年次生から利用可能です。「就職活動の流れが知りたい」「自分の強みが分からない」といった相談もOKです。気軽な気持ちで利用してください。

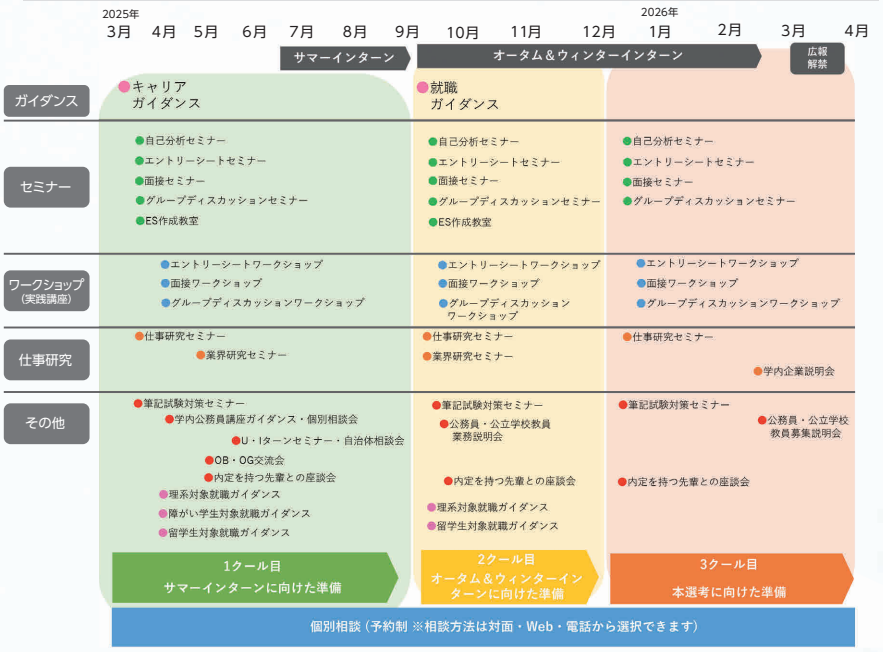
予約方法等の詳細はキャリアセンターWebサイトの「個別相談の利用」でお知らせしています。

キャリアセンター 年間プログラム

スタートは3年次生の春から!

キャリアセンターの支援プログラムが本格的に始まるのは3年次生の春からです。コアプログラムは「ガイダンス（就活戦略を立てる）」・「セミナー（業界研究・選考対策）」・「ワークショップ（本番に向け少人数で実践）」を1セットとしています。それらのプログラム以外に、公務員志望者向けのプログラムや、内定を持つ先輩学生との交流会などを開催しています。就職活動は、学業や部活動といかに両立させるかがポイントです。自身のスケジュールとキャリアセンターのプログラム日程を確認しながら、計画的に進めましょう!

2027年春採用に向けた主な支援プログラム（3年次生・大学院1年次生対象）



■ 2024年度 事業活動収支計算書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

(単位:千円)

		科目	予算	決算	差異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	33,643,040	34,455,422	△ 812,382
		手数料	1,711,550	1,885,124	△ 173,574
		寄付金	310,630	560,302	△ 249,672
		経常費等補助金	3,658,030	4,452,374	△ 794,344
		付随事業収入	921,350	1,305,982	△ 384,632
		雑収入	911,810	1,108,275	△ 196,465
		繰出金(教育活動)	0	4,530	△ 4,530
		分担金	195,880	186,500	9,380
		教育活動収入計	41,352,290	43,958,509	△ 2,606,219
		科目	予算	決算	差異
	事業活動支出の部	人件費	21,488,890	21,941,023	△ 452,133
		教育研究経費	16,262,760	16,536,691	△ 273,931
		管理経費	1,826,320	1,908,727	△ 82,407
		徴収不能額等	15,680	31,029	△ 15,349
		繰入金(教育活動)	0	13,356	△ 13,356
		教育活動支出計	39,593,650	40,430,826	△ 837,176
		教育活動収支差額	1,758,640	3,527,683	△ 1,769,043
教育活動外収支		科目	予算	決算	差異
	事業活動収入の部	受取利息・配当金	307,660	570,459	△ 262,799
		その他の教育活動外収入	440	0	440
		繰出金(その他)	3,860	3,673	187
		教育活動外収入計	311,960	574,132	△ 262,172
		科目	予算	決算	差異
	事業活動支出の部	借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		繰入金(その他)	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
		教育活動外収支差額	311,960	574,132	△ 262,172
経常収支差額			2,070,600	4,101,815	△ 2,031,215

(単位:千円)

		科目	予算	決算	差異
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	74	△ 74
		その他の特別収入	200,000	650,749	△ 450,749
		繰出金(施設設備)	220,000	220,000	0
		特別収入計	420,000	870,823	△ 450,823
		科目	予算	決算	差異
	事業活動支出の部	資産処分差額	3,700	51,217	△ 47,517
		その他の特別支出	0	24,273	△ 24,273
		繰入金(施設設備)	0	0	0
		特別支出計	3,700	75,490	△ 71,790
		特別収支差額	416,300	795,333	△ 379,033
予備費			260,000		260,000
基本金組入前当年度収支差額			2,226,900	4,897,148	△ 2,670,248
基本金組入額合計			△ 2,397,170	△ 2,197,512	△ 199,658
当年度収支差額			△ 170,270	2,699,636	△ 2,869,906
支出準備金取崩額			477,640	742,676	△ 265,036
支出準備金繰入額			△ 813,680	△ 1,778,001	964,321
基本金取崩額			0	0	0
調整後当年度収支差額			△ 506,310	1,664,311	△ 2,170,621
前年度繰越収支差額			△ 25,812,090	△ 25,812,090	0
翌年度繰越収支差額			△ 26,318,400	△ 24,147,779	△ 2,170,621

(参考)

事業活動収入計	42,084,250	45,403,464	△ 3,319,214
事業活動支出計	39,857,350	40,506,316	△ 648,966

2025年度 大学予算について

2025年度大学予算は、3月6日開催の予算委員会および大学評議会、3月29日開催の法人評議会、理事会で承認、決定されました。
主な事業は以下のとおりで、詳細な予算額については2025年度事業活動収支予算書のとおりです。

教育研究の充実
教室等マルチメディア環境整備
Adobe Creative Cloudライセンス契約
コミュニティツール「Commune」の導入

企画広報・管理運営
ブランディング強化事業(大学案内公式アプリ)
教務システム改修
人事部業務の外部委託

学生生活支援の充実
企業向けバーチャル・オフィスの開設、バーチャル・プラットフォームの運用
同志社大学ポータルバージョンアップ、機能追加
証明書発行システムリプレース

建設事業
今出川新図書館建設事業　改築等工事
京田辺キャンパスリニューアル事業　教室他改修工事
スポーツ・コンプレックス事業　建設工事
電話交換機(PBX)整備工事

■ 2025年度 事業活動収支予算書

2025年4月1日から2026年3月31日まで

(単位:千円)

		科目	予算	前年度予算	増減
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	34,502,760	33,643,040	859,720
		手数料	1,711,550	1,711,550	0
		寄付金	303,610	310,630	△ 7,020
		経常費等補助金	3,939,140	3,658,030	281,110
		付随事業収入	912,560	921,350	△ 8,790
		雑収入	890,300	911,810	△ 21,510
		繰出金(教育活動)	0	0	0
		分担金	194,310	195,880	△ 1,570
		教育活動収入計	42,454,230	41,352,290	1,101,940
		科目	予算	前年度予算	増減
	事業活動支出の部	人件費	21,800,390	21,488,890	311,500
		教育研究経費	17,380,820	16,262,760	1,118,060
		管理経費	2,010,590	1,826,320	184,270
		徴収不能額等	11,940	15,680	△ 3,740
		繰入金(教育活動)	0	0	0
		教育活動支出計	41,203,740	39,593,650	1,610,090
		教育活動収支差額	1,250,490	1,758,640	△ 508,150
教育活動外収支		科目	予算	前年度予算	増減
	事業活動収入の部	受取利息・配当金	408,370	307,660	100,710
		その他の教育活動外収入	440	440	0
		繰出金(その他)	2,750	3,860	△ 1,110
		教育活動外収入計	411,560	311,960	99,600
		科目	予算	前年度予算	増減
	事業活動支出の部	借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		繰入金(その他)	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
		教育活動外収支差額	411,560	311,960	99,600
経常収支差額			1,662,050	2,070,600	△ 408,550

(単位:千円)

		科目	予算	前年度予算	増減
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	200,000	200,000	0
		繰出金(施設設備)	162,400	220,000	△ 57,600
		特別収入計	362,400	420,000	△ 57,600
		科目	予算	前年度予算	増減
	事業活動支出の部	資産処分差額	0	3,700	△ 3,700
		その他の特別支出	0	0	0
		繰入金(施設設備)	0	0	0
		特別支出計	0	3,700	△ 3,700
		特別収支差額	362,400	416,300	△ 53,900
予備費			270,000	260,000	10,000
基本金組入前当年度収支差額			1,754,450	2,226,900	△ 472,450
基本金組入額合計			△ 2,952,360	△ 2,397,170	△ 555,190
当年度収支差額			△ 1,197,910	△ 170,270	△ 1,027,640
支出準備金取崩額			432,660	477,640	△ 44,980
支出準備金繰入額			△ 758,540	△ 813,680	55,140
基本金取崩額			0	0	0
調整後当年度収支差額			△ 1,523,790	△ 506,310	△ 1,017,480
前年度繰越収支差額			△ 24,147,780	△ 25,812,090	1,664,310
翌年度繰越収支差額			△ 25,671,570	△ 26,318,400	646,830

(参考)

事業活動収入計	43,228,190	42,084,250	1,143,940
事業活動支出計	41,473,740	39,857,350	1,616,390

2024年度 大学決算について

財務部 経理課

2024年度大学決算は、2025年5月8日開催の大学予算委員会および大学評議会、5月23日開催の法人理事会で承認されました。

2024年度は、施設設備整備について、今出川校地においては、新図書館改築等工事および空調設備の老朽化対応としての扶桑館および明徳館の空調改修工事を実施しました。また、京田辺校地においては、スポーツ・コンプレックス建設工事および各所昇降機改修工事を実施し、学生生活のアメニティ向上を図りました。

教学面では、創立150周年を迎える同志社大学の更なる発展及び創立200周年に向けた強固な基盤形成を実現するため、ICTを活用した変革への意志と方針を表明する「Doshisha Digital Transformation(DDX) 宣言」を発出しました。

また、2022年度から開始している「同志社データサイエンス・AI教育プログラム(DDASH)」では、応用基礎レベル(DDASH-A)で「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の文部科学大臣認定を取得し、メタバースを活用した「バーチャル説明会」やEVE期間中のアカデミック企画として良心館にブースを設置してDDASHの履修を促進しました。

全学共通教養教育科目の再編成と体系化については、全学共通教養教育科目の区分を見直し、キャリア形成支援科目をライフデザイン科目に名称変更しました。また、自然・人間科学系科目を分離し、人間科学系科目の下位に保健体育科目を設置しました。さらに、良心や国際性の涵養、イノベーションの推進を図るため、「同志社科目特論」、「国際関係学概論」、「国際文化学概論」、「イノベーション基礎」を新設するなど、学部・研究科横断の取組を推進しました。また、アントレプレナーシップ教育の体系化を図り、「同志社イノベーション・ゲートウェイ(DIG)」の開設を決定しました。

研究面では、国際的に高く注目されている学術雑誌に投稿し、オープンアクセス化により研究成果を広く公表することを奨励し、学術コミュニティや社会に貢献しようとする研究者の研究活動を支援する目的で、2023年度より実施している「国際学術論文公開奨励研究費」による支援を推進しました。また、日本学術振興会 特別研究員(PD等)に採用された優秀な若手研究者が、安定して自身の研究に取り組める環境を整備するため、本学の特別研究員として雇用する制度を導入し、若手研究者の確保・育成に向けた取組を推進しました。

学生支援面では、トイレのピクトグラムの整備を実施し、その呼称を全ての人々に開かれた普遍性を表現する「ユニバーサルトイレ」とすることを決定しました。また、キャンパス内にデジタルサイネージを設置し、学生の様々な活動や成果、イベント情報等を発信することにより、利便性の向上や、学生同士のコミュニケーションの活性化を図る取組を実施しました。

そのほか、「同志社大学ビジョン2025」を推進すべく、「同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金」を継続して実施しました。この募金は、ビジョンに掲げる事業推進をはじめ、奨学事業、課外活動支援、施設設備整備等、幅広い事業を対象としており、本学に関わる全てのステークホルダーに本学の教育・研究活動のさらなる充実・発展に向けての支援をお願いするもので、2025年末まで継続的に実施する予定です。

以上の通り、2024年度もこれまで同様、教育、研究、学生支援、施設設備整備の各方面に亘り、必要となる財政的支援を重点的かつ効果的に行いました。収入面では、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、経常費等補助金、付随事業収入の増収により、予算よりも大幅な増収となり、支出面においては、人件費や業務委託費の費用増により予算と比較してやや増加しました。

以下、事業活動収支計算書に基づき主な収支の内容について説明します。

用語解説

■ 事業活動収支計算書
学校法人会計基準において学校法人に作成が求められている計算書類の一つで、当該年度の事業活動における収入と支出の内容とその均衡状況を表すものです。

■ 事業活動収入
事業活動収支計算書の教育活動収支・教育活動外収支・特別収支の収入の部を合計したものです。当該年度の収入のうち、学校法人の負債とならない収入をいいます。したがって借入金、前受金、預り金などは含まれません。

■ 事業活動支出
事業活動収支計算書の教育活動収支・教育活動外収支・特別収支の支出の部と予備費を合計したものです。人件費、物件費、減価償却額など、当該年度に消費する支出です。

■ 基本金
基本金は、学校法人の活動計画に基づき必要となる資産を事業活動収入から組入れて継続的に保持するもので、自己資金により取得した固定資産の価額に対応する第1号基本金、将来取得する固定資産に充てるための第2号基本金、運用果実により教育研究活動を進めるための基金である第3号基本金、恒常的に保持すべき運転資金である第4号基本金から成ります。事業活動収支計算書では、当年度に組入れる額が「基本金組入額合計」で表示されています。

Ⅰ. 教育活動収支

学生生徒等納付金は345億円で、事業活動収入に占める割合は約76%と大きな比重を占めています。

手数料は19億円で入学検定料が主なものです。

寄付金は6億円で、同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金、研究助成への奨学寄付金、寄付教育研究プロジェクトなど教育研究活動への寄付金を受入れました。

経常費等補助金は45億円で、国庫補助金が主なものです。この大部分を占めるのが私立大学等経常費補助金で、一般補助27億円、特別補助3億円を受入れた他、授業料等減免費交付金として12億円を受入れています。その他の国庫補助金では、従来雇用関係を有していなかったPD等について雇用を可能にすることで、PD等の育成と研究環境の向上を図り、積極的に優秀な若手研究者の確保・育成に取り組むことを目的とした若手研究者雇用支援金などを受入れました。

付随事業収入は13億円で、企業からの共同研究費・受託研究費などの受託事業収入、学生寮の寮費などの補助活動収入が主なものです。

雑収入は11億円で、私立大学退職金財団からの交付金収入や施設設備利用料収入が主なものです。

分担金は2億円で、法人業務に係る法人内各学校の負担分です。

教育活動収入計は440億円で、予算に対して26億円の増額となりました。

人件費は219億円で、事業活動収入に対して約48%となりました。

教育研究経費は165億円で、経常的な教育研究活動に要した経費です。

管理経費は19億円で、大学の維持管理に要した経費です。

その他の支出を加えた**教育活動支出計**は404億円となり、予算に対して8億円の増加となりました。

学校法人の本業である教育研究事業の収支である、**教育活動収支**は、35億円の収入超過です。

Ⅱ. 教育活動外収支

教育活動外収支は、主に財務活動の収支区分で、受取利息・配当金の計上等により、6億円の収入超過です。

教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合わせた**経常収支**は41億円の収入超過です。

Ⅲ. 特別収支

特別収支は、特殊な要因によって一時的に発生した臨時的な事業活動収入及び事業活動支出で、8億円の収入超過です。施設設備に係る寄付金及び補助金、現物寄付、法人内資金調達に係る返済額、本年度除却の固定資産に係る資産処分差額並びに過年度修正額が該当します。

Ⅳ. 基本金組入額および収支差額

基本金組入前当年度収支差額は49億円の収入超過となります。

基本金組入額は学校法人がその諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために組み入れる額で、22億円を組み入れます。今後の資産取得に向けての第2号基本金の組み入れが主なものです。

基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額を控除した**当年度収支差額**は27億円の収入超過となります。

支出準備金取崩額は7億円で、使途が特定された準備金の取崩額などです。

支出準備金繰入額は18億円で、使途特定寄付金、研究費および大規模建設事業などの予算繰越額を決算において繰り入れたものです。

基本金取崩額は0円です。

当年度収支差額に支出準備金取崩、繰入、基本金取崩額を加えた**調整後当年度収支差額**は、17億円の収入超過となります。

なお、**累積収支差額**として241億円の支出超過額を翌年度に繰り越すこととなります。

［ ゼミで学ぶ 魅力を語る ］

幅広い領域の専攻から数多くのゼミがある本学。
それぞれ、どんなことを学んでいるのか。
ゼミ教員が、個性豊かなゼミの魅力を語ります。

国際社会における平和と戦争を理解する

政策学部
准教授

富樫（とがし） 耕介（こうすけ） ゼミ

Togashi Kosuke

私のゼミでは、冷戦終結後の国際社会における諸問題を国際政治学と比較政治学の観点から研究しています。私の専門は、旧ソ連地域における紛争研究ですが、学生のテーマは、旧来的な安全保障や核兵器から、トランプ政権下の国民の分断、欧州におけるポピュリズム、イスラーム・テロリズム、人道的介入など多様です。対象国も欧米、ロシア、中国、アフリカ、北欧、中東、南米と広がりがあります。

ゼミでは、三つのことを重視します。第一に、自分の感性、知的好奇心を大切にし、学生が真にやりたいテーマを選び研究することです。第二に、文献発表と議論を通して批判的な論理的思考力を身につけることです。ゼミでは、発表者でなくとも文献は必ず読了し、全員に発言をしてもらい、議論を重ねます。

第三に、大学における各自の研究成果としてのクオリティの高い卒論を完成させることです。

ゼミは少人数で運営していますが、そのおかげで(?)、同僚の月村太郎教授のゼミとご一緒させていただき、国内(沖縄)や海外(バルカン諸国)で「戦争と平和を考えるフィールド・ワーク」も実施できています。他にも関西国際関係合同ゼミ、ゼミ合宿、卒論発表会、学年を超えた交流なども実施しており、ゼミ生同士(先輩・後輩)、教員と学生も密度の濃い時間を過ごせています。ゼミ生によれば「政策学部で最もハードなゼミ」と学生たちの間で恐れられているそうです。とはいえ、ゼミ生たちは、学問と真摯に向き合い、大学で一つのことを成し遂げたという充実感と満足感を得ているようで、毎年、自信に満ちた顔で巣立っていきます。

生体情報計測と情報処理でヒトのウェルビーイングを促進する

生命医科学部
教授

日和（ひわ） 悟（さとる） ゼミ

Hiwa Satoru

私と廣安知之教授が主宰するヒューマンインフォマティクス研究室では、ヒトのウェルビーイング促進をミッションに、脳機能計測と情報処理による認知機能分析、ヒトに優しいシステム開発、医用情報処理技術の開発に取り組んでいます。最近では、運転中の脳血流変化から「ぼんやり運転」を検知する技術、創造的思考時の脳活動パターン分析、新規医薬分子を探索する機械学習技術の開発などを進めています。仮説設定から実験デザイン、データ取得、解析プログラム作成まで自ら取り組める、分野横断的な研究環境が魅力です。

三年次秋学期に配属後、簡単な実験課題に取り組みながら研究の一連の流れを学び、四年次春学期に卒業研究の方向性を定め、クリスマス頃に卒論第一稿の完成を目指します。ゼミは週一回、大学院生を交えた班ごとの進捗共有・議論を通じて学びを深めます。論文投稿や学会発表も奨励しており、学生が筆頭著者となる論文も数多く生まれています。

当研究室は「研究を通じて自身の知識とスキルを高めること」を指導方針に掲げ、機械学習・統計解析から実験心理学に至るまで幅広いスキルを修得し、卒業後のキャリアに活かせる力を育みます。卒業生も多様な業界・職種で活躍しています。

ゼミ生の声（森 滉一郎さん）

創造性に関する脳活動を分析し、脳の状態の多様性を読み解く研究をしています。ゼミでは自分の関心に沿ってテーマを深掘りでき、理論と実データの両面から学べる点が魅力です。学生ごとに研究内容が異なるため、意見交換を通じて多様な視点を得られる環境が整っています。主体的に学び、刺激を受けながら成長できるゼミです。

learning objects of

Seminars

スポーツ健康科学部
准教授

新井（あらい） 彩（あや） ゼミ

Arai Aya

ヒトの身体の〝振る舞い〟のメカニズムを追究する

私のゼミでは、速く走るには？高く跳ぶためには？美しく歩くには？いつ、どの筋が、どのような仕組みで機能するのか？など、アスリートの動きから日常生活動作まで、ヒトの動きを観察するところから学びが始まります。

3年次の演習では、スクワットなどのシンプルな運動を用いて議論します。わずかな関節角度の違いで動員される筋群に変化が生じますが、多くの人に支持されるフォームは果たして本当に効果的なのか？は、パフォーマンスの比較だけでは肯定も否定もできません。身体の構造や力学的なメカニズムを含めた議論の上にあらゆる可能性を探っていくことが必要であり、議論を通じて隠された本質を見抜く力を養うことを目指しています。

卒業研究では、映像を用いた動作分析や、筋肉の活動を観察する筋電図、力やパワー発揮を計測する手法を用いて、複合的にスポーツ動作を測定していきます。実験を繰り返し、学生自らトライ&エラーを重ねていく機会を得て卒業研究に向かっていきます。ヒトを対象とする実験は1人ではできませんから、仲間との協力や議論を重ねて理解し合うことが求められるため、自然とコミュニケーション力や実行力が養われていきます。

学生たちには「なぜ？」のその先に向かって「何をするか」よりも「どう取り組むか」を考える力を備えてほしいと思っています。ゼミを通して、ヒトの身体の仕組みを探究することを題材に、社会で活躍するクリエイティブな人間力を高めてくれることに期待しています。

グローバル地域文化学部
准教授

立石（たていし） 洋子（ようこ） ゼミ

Tateishi Yoko

異文化の共生を可能にする条件を考える

私のゼミでは、ヨーロッパ地域における異文化共生を中心的なテーマとしながら、難民の受け入れや移民の社会統合、民族紛争など、学生の関心に応じて広範なテーマを扱っています。これらの問題は日本においても今後さらに重要性が高まることから、自分たちの問題としてこれらの事象に向き合い、異なる価値観を持つ人々が共存するには何が必要なのかを考えることを課題としています。

3年次には基礎的な文献を講読し、議論することで視野を広げ、4年次では卒業論文の執筆に取り組みます。合宿でのグループ発表なども含めて、学生が主体的にゼミを運営することを重視しています。2年間を通じてヨーロッパが抱える諸問題について知るだけでなく、課題を自ら発見し、他者との対話を通じてそれを解決する力を身につけることを期待しています。

ゼミ生の声（村上 遼さん、北村 澪さん）

学生の研究テーマは様々で、教育や福祉、ジェンダーから軍事・安全保障まで多岐にわたります。様々な分野に触れつつ、自らの興味のあるテーマを自由に研究できる環境が魅力的です！

私の学年には北欧、西欧、ユーラシアなど、様々な地域に関心を持つ学生が集まっているため、自分の関心外であった地域にも目を向けることが新たな発見につながり、「多角的な知識や視点」を学ぶことができます。また、学生主体で議論や発表などを実施するため、チームワーク力や積極性が高められていると感じています！

本学教員の執筆図書紹介

（価格は税込み）

家族法学の現在と未来
神谷遊 他著 信山社 15,180円

数理科学のための常微分方程式と複素積分
竹井義次 著 サイエンス社 2,365円

アジア系アメリカを知るための53章
和泉真澄 南川文里 他著
明石書店 2,200円

宗教・カルト・法
小原克博 他著 高文研 2,200円

日本の分断はどこにあるのか
池田謙一 他編著 勁草書房 4,290円

入門 人的資源管理論
中村艶子 他著 法律文化社 3,190円

模範六法 2025
村中孝史 他編 三省堂 7,040円

Middle-Class Boys' Schools in England and Japan
ROBERT WILLIAM ASPINALL 著
Routledge

デジタル時代のコレクション論
佐藤翔 他著 勉誠社 3,850円

中学校教師として生きる 第2版
中瀬浩一 井上浩史 他著
樹村房 1,760円

日本の製紙業における合併効果
上田雅弘 著 ミネルヴァ書房 4,400円

ドイツ哲学入門
鬼頭葉子 他著 ミネルヴァ書房 4,180円

はじめて向きあう韓国
浅羽祐樹 編 浅羽祐樹 朴鍾厚 他著
法律文化社 2,310円

「帰れ」ではなく「ともに」
板垣竜太 他著 大月書店 1,980円

データとケースでわかるヨーロッパ企業
和田美憲 著 中央経済社 2,970円

人事管理のリサーチ・プラクティス・ギャップ
田中秀樹 他著 有斐閣 3,630円

リサーチ・クエスチョンとは何か?
佐藤郁哉 著 筑摩書房 1,056円

オセアニア文化事典
渡辺文 他著 丸善出版 26,400円

公共政策学事典
野田遊 他編著
市川喜崇 入江容子 風間規男 真山達志
武藏勝宏 山谷清志 他著
丸善出版 27,500円

防災と福祉ガイドブック
立木茂雄 他編著 永田祐 他著
朝倉書店 3,520円

刑事法学の新たな挑戦
十河太朗 川崎友巳 他著
成文堂 22,000円

論点体系 判例労働法 1 第2版
土田道夫 他著 第一法規 7,150円

アメリカ映画史入門
河原大輔 他著 三修社 4,180円

スペイン・ポルトガル史 研究入門
阿部俊大 他編著 山川出版社 4,400円

ヨーロッパ契約法 第2版
梶山玉香 他訳 法律文化社 14,300円

悪意の見える化とリスク・マネジメント
太田肇 他著 エヌ・ティー・エス 46,200円

辺境からコロンビアを見る
柴田修子 他著
Sophia University Press上智大学出版
2,640円

紛争後社会と和解
月村太郎 編 月村太郎 他著
晃洋書房 4,180円

ウェルビーイングと財政
田中宏樹 他編 日本財政学会 5,500円

Handbook of Japanese Public Administration and Bureaucracy
ROBERT WILLIAM ASPINALL 他著
Japan Documents

民事訴訟法概説 第4版
川嶋四郎 著 弘文堂 4,950円

大統領たちの五〇年史
村田晃嗣 著 新潮社 1,980円

地方自治法入門 第3版
佐伯彰洋 他編著 黒坂則子 他著
成文堂 2,420円

国際契約法務の研究
吉川英一郎 著 文眞堂 4,620円

考古学と文化史
水ノ江和同 若林邦彦 浜中邦弘 他著
同志社大学考古学研究室

ヘイトクライムに立ち向かう
檜垣伸次 他編著 板垣竜太 他著
日本評論社 2,860円

民事執行・保全法入門
川嶋四郎 編 川嶋四郎 園田賢治 他著
日本評論社 2,970円

現代中国の腐敗と反腐敗
厳善平 他著 法政大学出版局
5,830円

債権法改正講座 第1巻 総論・総則
佐久間毅 他著 日本評論社 5,280円

選挙との対話
飯田健 他著 青弓社 1,980円

法の理念と現実
濱真一郎 他著 成文堂 12,100円

黎明期のキリスト教社会事業
木原活信 他著 教文館 3,300円

プラットフォームとデモクラシー
吉田徹 他著 慶應義塾大学出版会
2,970円

はじめての民事手続法 第2版
川嶋四郎 他編著 有斐閣 2,530円

京都秦家
小林丈広 他著 岩波書店 2,860円

インターセクショナリティ
保井啓志 他著
東京大学出版会 2,860円

イギリス湖水地方
臼井雅美 著 春風社 2,420円

日本法制史講義 公法篇
北康宏 編・解説 講談社 2,420円

商法総則・商行為法の現在
舩津浩司 他著 有斐閣 4,400円

感情のアーカイヴ
菅野優香 監訳 花伝社 4,400円

パソコンがあればできる! ことばの実験研究の方法 第2版
長谷部陽一郎 他著
ひつじ書房 3,080円

PFASの規制動向と対応技術
松本道明 他著
技術情報協会 88,000円

コーポレート・ガバナンスのフロンティア
川口恭弘 釜田薫子 他著
商事法務 18,700円

憲法学と憲法学者の〈アフター・リベラル〉
吉田徹 他編 弘文堂 4,180 円

韓国語セカイを生きる 韓国語セカイで生きる
浅羽祐樹 朴鍾厚 編
浅羽祐樹 朴鍾厚 他著
朝日出版社 2,640円

ASEANを知るための50章 第2版
浅野亮 他著 明石書店 2,200円

足利一門と動乱の東海
山田徹 他著 吉川弘文館 2,970円

ウクライナ戦争犯罪裁判
新井京 他編著 信山社出版 3,190円

法思想史を読み解く 第2版
戒能通弘 他著 法律文化社 3,190円

忘れられたアダム・スミス
山森亮 著 勁草書房 3,300円

バザールカフェ
野村裕美
MARTHA MENSENDIEK 他著
学芸出版社 2,200円

不動点定理による安定性解析
齋藤誠慈 著 森北出版 9,350円

ユダヤ文化事典
小野文生 他編著
石黒安里 勝又悦子 保井啓志 他著
丸善出版 26,400円

新注釈民法 10 債権 3
深谷格 他著 有斐閣 9,900円

揺らぐ国際秩序と混迷する世界
兼原信克 他著 産経新聞出版 1,980円

挑戦するフェミニズム
岡野八代 他著 有斐閣 3,190円

電気電子数学基礎
近藤弘一 著 数理工学社 2,310円

リサイクル材・バイオマス複合プラスチックの技術と仕組
田中達也 大窪和也 他著
S&T出版 69,300円

日本復帰50年 琉球沖縄史の現在地
増渕あさ子 他著
東京大学出版会 3,960円

法学講義 民事訴訟法 第2版
川嶋四郎 中西正 他著
弘文堂 3,960円

判例講義 民法I 総則・物権 第3版
佐久間毅 他編著 大中有信 他著
勁草書房 3,520円

茶道の文化経済学
太田直希 著 水曜社 2,970円

カルマンフィルタの基礎と実装 改訂版
橋本雅文 他著
科学情報出版 4,730円

日本考古学の論点 下
若林邦彦 他著 雄山閣 24,200円

クリエイティブ・ジャパン戦略
河島伸子 他編著
太下義之 八木匡 他著
白桃書房 3,400円

刑事司法の理論と実践
濵田毅 他著 現代人文社 16,500円

21世紀型リベラルアーツと大学・社会の対話
山田礼子 編 山田礼子 他著
東信堂 3,410円

ガザ紛争
保井啓志 三牧聖子 新井京 他著
東京大学出版会 2,090円

同志社人訪問

Interview with Doshisha People

映画『ドラえもん のび太の地球交響楽（シンフォニー）』をはじめ、多彩なアニメ作品の脚本を手がける内海照子さん。同志社大学法学部法律学科を卒業後、法律事務所でキャリアをスタートさせましたが、表現への思いが高まり転身、その世界に飛び込みました。現在は、アニメーション制作会社「ラパントラック」の代表としても活躍中。歩みの原点には、大学時代に所属していた軽音サークルS.M.M.A.（サンマ）での表現活動がありました。今回は、同じサークルの後輩でもある文学部美学芸術学科4年次生の嶺井舞子さんが、内海さんの制作現場を訪ねました。

法律の世界から物語（アニメーション）の世界へ

嶺井：今日はお時間をいただきありがとうございます。S.M.M.A.出身の加藤さんから、内海さんは「S.M.M.A.の文化人」と伺っていて、お会いできて、光栄です。

今回の同志社人

ラパントラック代表・脚本家

内海（うつみ） 照子（てるこ）さん（右）

同志社中学校、高校を経て同志社大学法学部法律学科卒業。大学時代は軽音サークルS.M.M.A.に所属。現在は「ラパントラック」代表を務めながら同社オリジナルの作品や、他社の作品でシリーズ構成や脚本を担当。2026年にMBS/TBS系列で放送予定のアニメ『正反対な君と僕』でシリーズ構成を担当予定。

Interviewer

文学部美学芸術学科4年次生

嶺井（みねい） 舞子（まこ）さん（左）

沖縄県出身。学部では現代アートとアート市場について学び、課外活動では大学公認軽音サークルS.M.M.A.に所属し、ボーカリストとして活動。幼い頃から声楽やボイストレーニングに触れ、オペラやポップス、ラテン、ロック等、多岐にわたるジャンルに関心を寄せる。

撮影場所：井の頭恩賜公園

内海：加藤くんは、ちょっと話を盛る癖があるんですよ（笑）。でも彼とは高校時代に、初めて一緒にバンドを組んだ間柄。「カレー会議」っていう名前で演奏していました。

嶺井：すごくカッコいいバンド名ですね！　語感が「東京事変」みたいで、私は好きです。

内海：ありがとう。語感、大事よね。

嶺井：内海さんの担当はどのパートだったんでしょうか？

内海：ギターボーカルでした。でも、正直、あまり歌えていなかった気がします。

嶺井：私も、サークルに入るときは「ギターボーカルができたらカッコいいな」と思っていたんですけど、ギターが全然弾けなくて（笑）。今はピンボーカルとして活動しています。

内海：それはきっと、歌が上手だからでしょう。

嶺井：だといいのですが（笑）。S.M.M.A.って、ジャンルも人も本当に自由で、好きなものをまっすぐに楽しめる空気がありますよね。

内海：うん、それは変わってないんだね。私たちの頃もいろんな人がいて、いろんな音楽があったな。

内海さんが脚本を手掛けた映画『ドラえもん のび太の地球交響楽』のディスクパッケージ（左）と映画パンフレット（右）

嶺井：内海さんはアニメ業界でご活躍されていますが、法律学科を卒業されてアニメ業界へ進まれたのは、どういう経緯で？

内海：卒業後は、法律事務所で事務として2年弱働いていました。仕事自体は面白かったんですけど、あるときふと、「何十年後かも同じことをしていそうだな」と思って、ルーティンじゃない仕事を、と考えるようになったんです。

嶺井：それがアニメだったんですね。アニメに興味を持ったきっかけは何だったんでしょう？

内海：実はS.M.M.A.が関係していて。S.M.M.A.には音楽オタクの人たちがたくさんいて、アニメも見ている人が多かった。彼らに影響されてアニメを見てみたら、クオリティの高さに驚いて「今のアニメってこんなに進化しているんだ」と面白く感じたのがきっかけでした。

嶺井：業界に入られてすぐ脚本のお仕事を？

内海：いえ、最初は制作進行という職種で働きました。絵が描けないので、本の編集者のようにいろんな人に絵を描く作業を発注して、スケジュール通りに進めて次のセクションに回していく管理業務です。この業界、スケジュールを守ってくれない人も多くて（笑）。スケジュール通り進まないからトラブルはしょっちゅう。きつい業界とは聞いていましたが、想像以上でした。

嶺井：うわぁ、それはきつそうですね…。管理業務って、法律事務所での経験も生かせた部分があったんでしょうか？

内海：そうですね、近い部分はあるのかもしれません。制作現場での経験は、その後の脚本執筆に大きな影響を与えています。制作進行時代のつながりのおかげで脚本の仕事ができていますし、脚本が上がった後、どういう作業が続くのか、どこで問題が起きやすいのかが分かっているので、それは私の強みかもしれませんね。

サークル活動からつながった音楽をテーマにした国民的アニメの脚本

嶺井：映画『ドラえもん のび太の地球交響楽』の脚本も手掛けられたと伺いました。音楽がテーマの作品ということで、内海さんのS.M.M.A.での経験が生かされているのでは？

内海：本当にその通りで、大学時代のバンド経験がこの仕事

につながったんです。以前、制作進行としてご一緒した監督が、私がバンドをやっていたことを覚えていてくださり、今回のドラえもんの映画が楽器を扱う作品だったため、「これは内海さんに」と声を掛けていただいたんです。

嶺井：すごい。S.M.M.A.での経験がそこまでお仕事にダイレクトにつながっていたんですね。

内海：私が学生時代にやっていた音楽と、映画のクラシックオーケストラの世界とはジャンルが違うけれど、重なる部分もあるなと感じました。たとえば、「こういう音を出したい」という気持ちとか、表現への集中とか。そうした部分は作品にも生かせたんじゃないかと思います。

嶺井：私も映画を拝見しました。初めての楽器に挑戦して、できないことに直面する場面が描かれていて。でも本番のセッションで音を重ねる楽しさを味わった時に、それまでの練習の苦労が一気に報われるような瞬間が訪れる…。そのシーンにすごく共感しました。

会社経営と脚本家業
理想のアニメーション制作を求めて

嶺井：内海さんは2014年に制作会社「ラパントラック」を設立され、代表も務めていらっしゃいますよね。脚本家でありながら経営も手掛けるなんて大変じゃないですか。

内海：ある人に「ライターをやりたいなら、もう会社をやっちゃえば」と言われ、その発想も「ありかな」と。オリジナルアニメでは企画段階からやりたかったし、脚本、制作、宣伝まで全てに関わりたかったので、それを実現するには会社を設立するのが最善と判断しました。

嶺井：ご自身で会社を経営することで、より自由に創作ができるということでしょうか。

内海：そうですね。企画の仕込みから後工程まで私が書いた脚本で進められるため、絵コンテやアフレコにも全て関わって細やかなチェックができ、解釈のズレが生まれにくいというメリットがあります。

嶺井：では最後に、創作分野を志す学生たちに向けてアドバイスをお願いします。

内海：「やりたくないことはやらなくていい」というのが私の考え。大学生の間は時間もあるし友達もいる。そういう時にしかできないことがあると思うんです。興味があることを突き詰めて、心ゆくまでやってみる方が、結局将来何かの糧になると思います。

嶺井：失敗を恐れる必要はないということですね。

内海：私はたくさん失敗してきましたが、そんな時は「この話は脚本のネタにできるな」と思うようにしています（笑）。また、「これ、できますか？」と言われたら、自分の力が足りないなと思っても基本的に引き受ける姿勢でいます。今の自分があるのは、チャンスが来たら飛び込むということを続けてきた結果だと思っています。

嶺井：内海さんの経験談は、好奇心を大切に、いろいろなことにチャレンジしていくことの大切さを教えてくれます。本日は、貴重なお話をありがとうございました。

ラパントラック制作オリジナルTVアニメ
『さらざんまい』のキャラクター

取材を終えて

Interviewer
嶺井 舞子さん

クリエイティブで前向きな内海さんの生き方に触れ、刺激とわくわくをたくさん受けるインタビューとなりました。一見無関係に見える過去の活動や過程も、すべてがどこかで人生やキャリアの糧となるのだなと勇気をもらいました。私も今ある興味・関心を大切にして、内海さんのような味わい深く、面白い大人になりたいです。今後もしなやかに進化していく内海さんのご活躍、そしてこれから生まれる数々の作品たちをとても楽しみにしています。

2025年7月(4・7・11月年3回)発行 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
発行 同志社大学 広報部広報課
TEL:075-251-3120
E-mail:ji-koho@mail.doshisha.ac.jp

VEGETABLE OIL INK

Portraits of challengers

My Purpose 挑戦する人

「能の伝統を継承し、未来へつなぐ。」

片山 峻佑(かたやま しゅんすけ)さん
スポーツ健康科学部
3年次生

幼少期より祖父・父の稽古を受ける。3歳の時、仕舞「猩々」にて初舞台を踏む。小学生の頃から12年間続けたラグビーで培った体幹や体力を活かした、躍動感のある舞を得意としている。趣味はサッカーや野球などのスポーツ観戦。

インタビュー動画もチェック

技と人間性を磨き、一人前の能楽師に。

六百年を超える歴史がある日本が誇る古典芸能、能楽。連綿と続く伝統の世界に身を置き、未来を担う能楽師として活躍しているのが片山峻佑さんだ。

物心ついた頃から稽古を受け、能は生活の一部だったという片山さん。3歳で初舞台を踏んだ後、数々の曲で子方(こかた)(子どもが演じる役)を勤めてきた。

「初舞台の記憶はほとんどないのですが、子どもの頃は緊張とは無縁だったように思います。能の歴史や、一つ一つの所作の意味が分かるようになった今の方が緊張しますね」

日々の稽古は、大学から帰った後に始まる。父の片山伸吾さんや他の師匠から指導を受ける以外は、自主稽古で研鑽を積む。

片山家は「シテ方」(主役)を勤めるが、太鼓や小鼓なども習う。それは、能の世界では全員で合わせて稽古する機会が一回しかないからなのだとか。「申し合わせ」と呼ばれるその一回で、舞う人、謡う人、囃す(はやす)人のバランスを合わせる必要があるからこそ、共演する人たちのリズム感や、舞台での動きを知るための稽古が欠かせない。

今は全ての稽古が楽しいと充実感をにじませる片山さんに、能のやりがいを聞いてみると「何百年も前の作品を演じることができるところ」と答えてくれた。古語や節回しは難しいが、それが少しずつ体に馴染んでいく感覚が楽しいのだという。

「父や師匠も含め、先輩能楽師たちが紡いできた歴史と伝統を現代につなぐ。自分もその一端を担っていることにはプレッシャーも感じています」

幼少期から能に打ち込んできた片山さんには、その表現の仕方や所作の奥深さを、スポーツ科学の視点から探求したいという思いがあった。スポーツ健康科学部に進学した片山さんは今、さまざまなスポーツを経験しながら、生理学を学んでいる。

「能とは全く異なる価値観や体の動かし方を学ぶことができるのが面白いですね。学部には能をよく知らない友人も多いので、まずは実際に僕の舞台を観てもらって、能の魅力を発信していければと思っています」

今後は、緊張がパフォーマンスに与える影響について、能とスポーツ両方の視点から研究したいと片山さん。スポーツ科学の知識を能楽に還元し、自身の芸をさらに磨いていく。その先にある、一人前の能楽師になる、という目標に向かって。

↑ 3歳の初舞台、仕舞「猩々」の様子。